

## 博士学位論文審査報告書

大学名 早稲田大学  
研究科名 人間科学研究科  
申請者氏名 城月 健太郎  
学位の種類 博士（人間科学）  
論文題目 社会不安障害の解釈バイアスの機能と介入プログラムの効果  
論文審査員 主査 早稲田大学教授 野村 忍 博士（医学）（東京大学）  
副査 早稲田大学教授 嶋田 洋徳 博士（人間科学）（早稲田大学）  
副査 早稲田大学教授 熊野 宏昭 博士（医学）（東京大学）  
副査 早稲田大学准教授 鈴木 伸一 博士（人間科学）（早稲田大学）

本研究は、社会不安障害における解釈バイアスの機能の検討とその結果に基づく介入プログラムの効果を検討したものである。まず、本論文の概要を紹介し、次にその評価について審査結果を報告する。

社会不安障害（Social Anxiety Disorder; 以下 SAD）は、“恥ずかしい思いをするかもしれない社会的状況または行為状況に対する顕著で持続的な恐怖”を特徴とする疾患であり、13%以上の高い有病率が指摘されている。そして、社会的状況としては、スピーチ場面がもっとも不安を喚起する場面であるとされている。SAD においては、従来より解釈バイアスの維持要因としての影響が指摘されている。解釈バイアスは、（1）あいまいな状況・情報の否定的解釈、（2）否定的状況・情報の破局的な解釈に大別され、不安障害や気分障害の維持要因としても考えられている。

近年の SAD 研究では、この解釈バイアスの中でも、Cost / Probability bias（コスト/予測バイアス）の機能について注目されている。コストバイアスとは、社会的状況のコスト・脅威を過度に高く見積もる認知であり、予測バイアスとは、不安を喚起する社会的状況が頻繁に生じると否定的に見積もる認知である。

従来の SAD 研究を概観した結果、この二つのバイアスについて、（1）コスト/予測バイアスが SAD 症状に影響するプロセスの解明、（2）スピーチ場面に特化したコスト/予測バイアスの SAD 症状への影響の解明、（3）SAD 患者への心理学的介入によるコスト/予測バイアスの変容の検証について検討する必要性があり、以下の研究を行った。

研究 1 では、コスト/予測バイアスを測定する尺度として、Social Cost Probability bias（以下 SCOP とする）の開発を行った。大学生 362 名を対象とした質問紙調査の結果、12 項目からなる SCOP が作成され、信頼性・妥当性が明らかにされた。加えて、従来の研究と

同様に、コストバイアスが社会不安症状（一般健常者における不安感情や回避・生理的反応の認知）に強く影響することが明らかにされた。次に、研究 2 では、コスト/予測バイアスが各社会不安症状に影響するプロセスについて検討した。大学生 290 名を対象とした質問紙調査の結果、生理的反応に対する認知、回避、不安感情という順に影響するプロセスが認められた（適合度指標：GFI=.98, AGFI=.91, RMSEA=.09）。さらに、コストバイアスは各社会不安症状に直接的な影響の強いことが認められた。また、予測バイアスは他者からの否定的評価への恐れとコストバイアスの媒介要因であることが示唆された。これらの結果を通して、コストバイアスに対する心理学的介入が、社会不安症状の改善において有効である可能性が示唆された。

次に、SAD のエクスポージャー場面として用いる、スピーチ場面の認知プロセスについて検討を行った。研究 3 では、スピーチ場面で生じるコストバイアスとしての否定的見積もりを測定する、Speech Estimation Scale (SES) を開発した。大学生 306 名を対象とした質問紙調査により、スピーチ場面での否定的見積もりを測定する、8 項目からなる SES が作成された。分析の結果、SES が信頼性・妥当性を有する尺度であることが認められた。

研究 4 では、大学生 315 名を対象とした質問紙調査により、スピーチ場面の否定的見積もりが様々な社会的状況での不安に影響することが認められた。その結果、社会的状況としてスピーチ場面を用いることによって、全般的な社会不安症状の改善に有効である可能性が示唆された。研究 5 では、実際のスピーチ場面を設定し、否定的見積もりが機能するプロセスについて検討を行った。その結果、否定的見積もりが不安に影響し、さらに否定的自己評価を高める経路の存在することが明らかにされた（GFI=.99, AGFI=.95, RMSEA=.01）。これらの結果から、スピーチ場面を用いたエクスポージャーと、否定的見積もりを低減する認知的介入の併用が有効であることが示唆された。

研究 6 では、コスト/予測バイアスの変容を目的とした SAD に対する個人療法プログラム（心理教育、エクスポージャー、ビデオフィードバックを含む 6 回のセッション）を作成し、研究 7 では、SAD 患者 19 名を対象に個人療法プログラムの効果検討を行った。分析の結果、本プログラムの実施により、コスト/予測バイアスの低減と SAD 症状（SAD 患者の臨床症状）の改善に関する有効性が認められた。特に、他者からの否定的評価の恐れ（SFNE）やコストバイアスなどの認知的変数の改善について、高い効果を示した。さらに、コストバイアスの低減が SAD 症状の改善に与える影響を検討した結果、コストバイアスの変化の高い群が、SAD 症状の改善が良好であることが示された。本研究の個人療法プログラムは、先行研究で行われた集団認知行動療法プログラムと比べ、不安の低減について同程度の効果が認められた。また、コストバイアスなどの認知的変数の改善は本プログラムの方がより高い効果を示した。

これらの研究を通して、第一に、コスト/予測バイアスが社会不安症状に大きく関与していること、第二に、SAD 患者への心理学的介入でコストバイアスの低減が臨床症状の

改善に効果的であることが示唆された。

本研究は、社会不安の心理学的維持要因としてコスト/予測バイアスのような解釈バイアスをとりあげ、その評価尺度の開発および社会不安症状に及ぼす影響を検討したものである。また、その結果に基づき、心理学的介入プログラムを構成し、実際の SAD 臨床群を対象としてその効果測定を行ったものである。本プログラムは、コストバイアスなどの認知的変数の改善、不安症状の低減効果を認め、実際の臨床場面での有用性を示したものである。今後、大規模な症例数を対象としたランダム化比較試験による効果とその有意性の検討が望まれるが、SAD に対する心理学的治療法の可能性を提示したことは臨床的意義のある優れた研究成果であると考えられた。

なお、本論文が掲載された主な学術論文は以下のとおりである。

- [1] 城月健太郎・笹川智子・野村忍：ネガティブな反すうが社会不安傾向に与える影響，健康心理学研究，Vol.20, pp. 42-48 (2007)
- [2] 城月健太郎・野村忍：Social Cost/Probability Scaleの開発- Cost/Probability biasが社会不安に与える影響-，心身医学，Vol. 49, pp. 143-152 (2009)
- [3] 城月健太郎・笹川智子・野村忍：スピーチに関する見積もりが社会不安に与える影響，心理学研究，Vol. 79, pp. 490-497 (2009)

以上の結果より、本審査員会は、城月 健太郎氏の学位申請論文「社会不安障害の解釈バイアスの機能と介入プログラムの効果」は、博士（人間科学）の学位を授与するに十分値するものと認める。

以上